特42
456

訂正
觀世流謠曲百拾番

鞍馬天狗

36

鞍馬天狗

内閣文庫

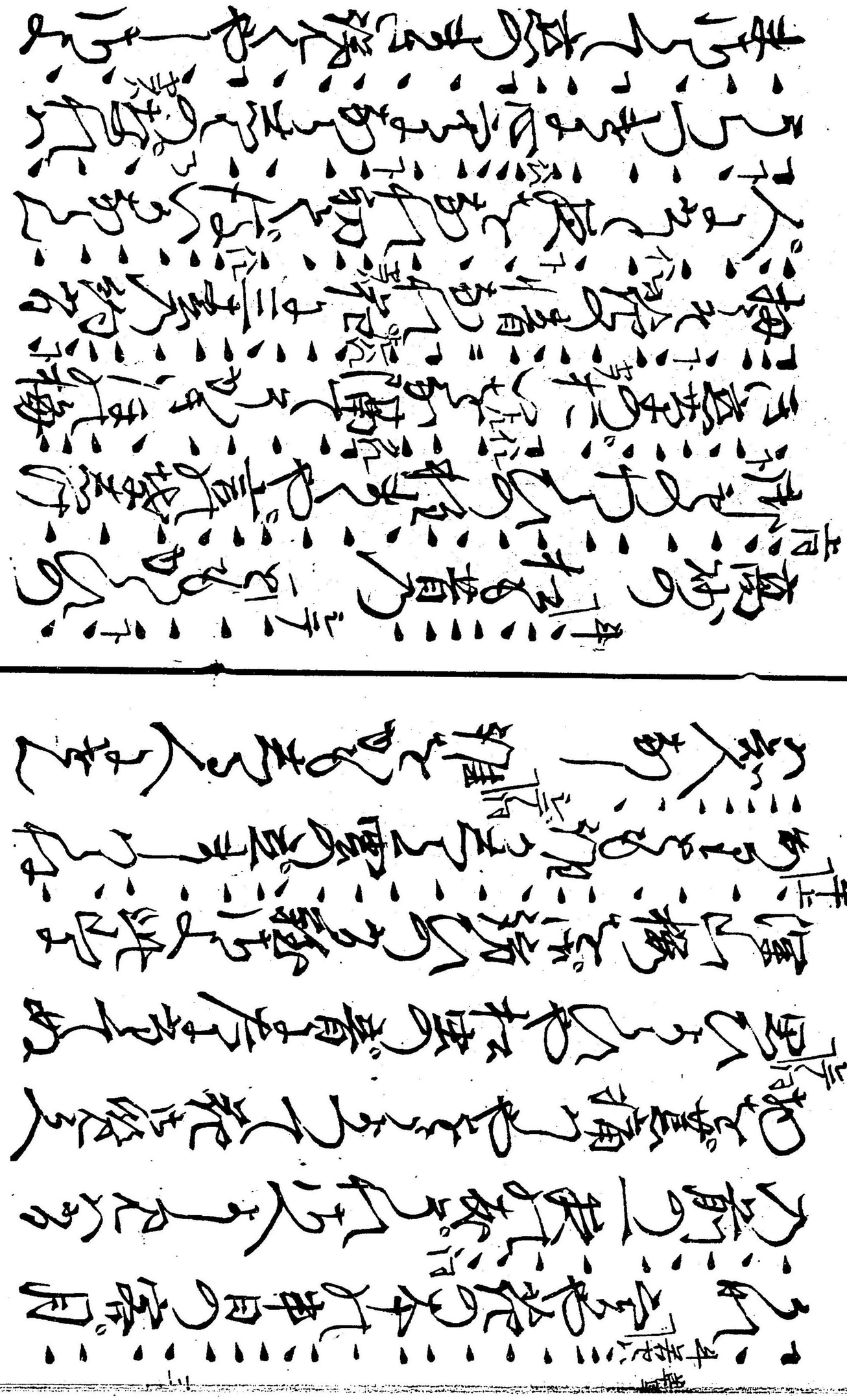
かゝ（シテ）ハ者ゝ。鞍馬の奥僧正ゝ言ゝ
ゝ客僧ゝて。拙も當山ゝ
ゝ。能ゝ山影ゝ岡ゝ立ゝ
ゝ梢ゝも詠ゝやと思ゝ（わたて）見ゝ
鞍馬ゝ市寺ゝ住ゝ中者ゝて拙も
當山ゝ毎年花見ゝ

殊より面白き事なれば去間
東谷へ申とて持て参れいりよ業
門より西谷より使よりまゐりて見れば
よ文の様なる物へ（宇治）仁と書給へ
花の今を盛とみしてなほ音信も
つゝみ申ぞ筆殊に古今よ
いとゝきみ見いらせやまし花盛

咲も沙汰しかねり敬ひ
心細く音信おくれども不陰なく
社へ参る　上臈　花ちるべきとしひ
里のゝ使なり馬より離ぬ面の
やまれや梅桜手枝折すらへて
奥も未つ咲つゝ陰よ初めて
いさゝか花ぞなるめん　めやよし

ものまゝ宮僧の藏りたるを氏狼藉
平問時 ありて者ども有あつまりたるを
相國ひろふ洪水戸數をもよほす平兩家
の童形迷ひ者ども所々の人
動くひ人ども所々の横ゝ申を
人をえひとよ似て内裏をいの明日
ゝ洪水へきぞ洪水をいふ立

ものまゝ
ものくるふ
いやいやそれは誤
平 いやいやうたがひまゝ
ゝ人々たちの宮僧を打立
ゝ人家をみな花あり即入論をい貴
賤と親疎とをわさまへをたまのあり
ひと同ものぶ学をまゝ鞍馬寺
ゝ大悲多天慈悲ものたらん



めでたかりけるこの児達をみおく
寺詣でに行どて出一人見まゐらせ
けんぶつとうちつれ達八幡宮の一門
ぜんも安藝守清盛子共たちまち
一寺の賞取他山乃法師共の沈
うちぶつて同山よりの面
ニニニニニニニニニニニニ
目もあてさるやたもとも花も捨

ちくしゃ蓋痛りや院宣なり上篇
ぺきハ腹よハ三寅沙への沙乃字
ちりとうぶ名ども沙那王殿とうを
ナすぐ蓋痛りやちアすをえれば
ニニニニニニニニニニニニ
鞍馬のすぢの月　やうへもあさ山
ニニニニニニニニニニニニ
星乃様花ぶりのうの敬なんなよりう
ニニニニニニニニニニニニ
ぶりもぶへきよ蓋痛りのちりや

上段

松風花の弘ひてうぐいす雪と降雨
やまぶき気猛雲よりきんて鶯と
つとうや心すこれ気色やタとあり光
あるうち鐘吉野すしてようて迄き奥
へ離るの山角の光そ知へある海辺
入を待へや扨も汐満れ出して夕を
ミ待へや扨も汐満れ出して夕を
上つるおとろのタ月あると高雄の

中上

初桜ひらや檜の海棠のもつ
もの名前ど花と方もあらへ出そ
云みくもめつ成へよまし使をへ我と
魅めをきんは名をおのりたりませ
上

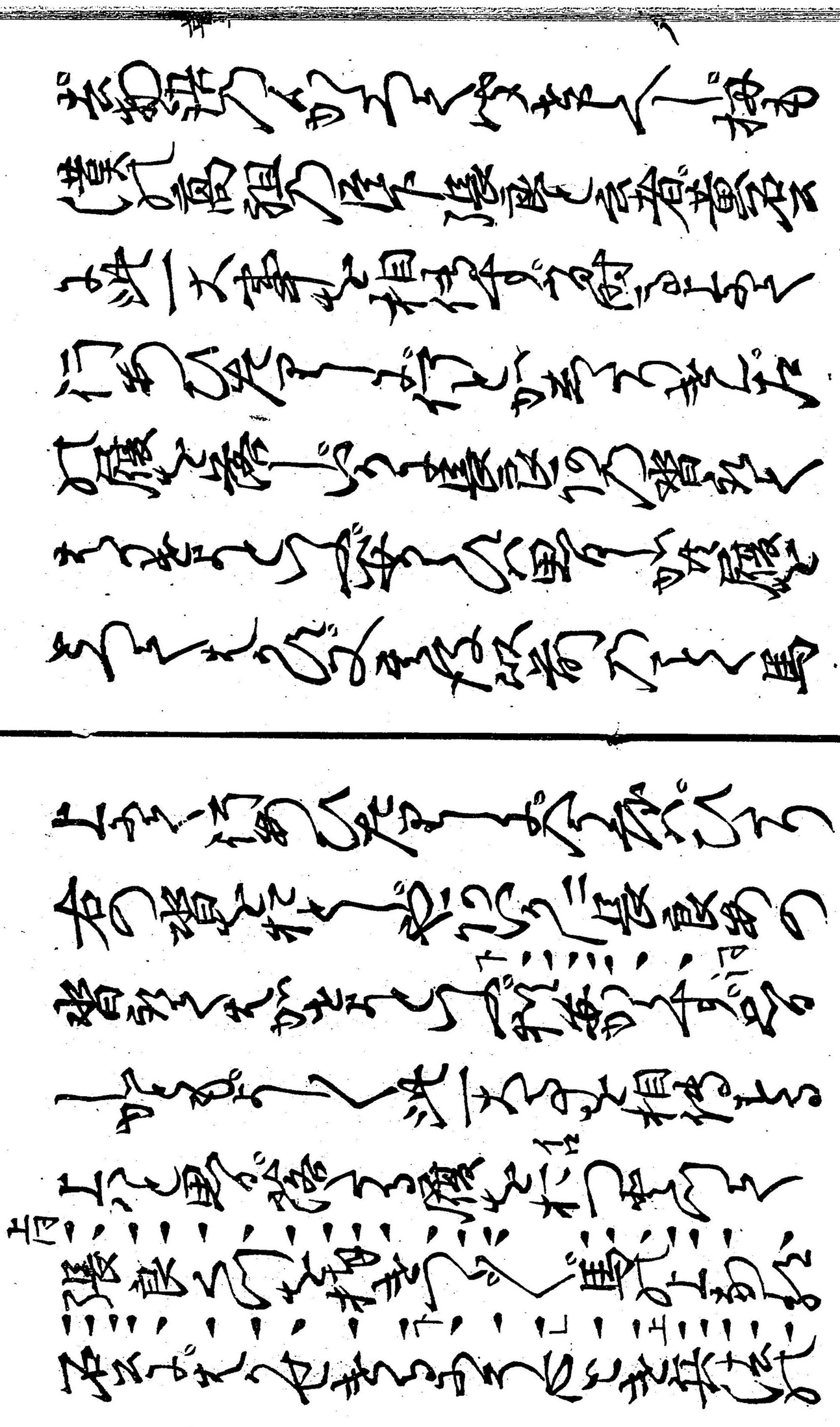
入行もつ上へき。我此山よ年へ
たる犬天狗い我せ　君兵法のだら
を伝へて平家ゑとそほ　給へきあり

ぢも男子はぢ明見手人書ヤ人しぢ
ヤ
ていひて雲僧ヤ人僧ぢう雲を
雲を蹴くらんてゆくうう雲をん
牛上
てどんてゆく　掬もゆ形まう出豆よ
ぐ〜いようす　花桜のうえよ　顕紋
沙の直豆ヤ　露と結て肩よいを白
上地
豆ヤ人隠巻白柄の長刀　吟へハ天麿

冤祢ありたぢ　ぢう帝の日撥ぢ初や
かなりきる出豆ヤ　抑見べ鞆る
奥僧ぢう雲ヤ　手へくもるヤ天
上地
物あり　壺ハ　ヤ人　ぢ僧ぢ物ぢきくそ
つくよる　ヤ人　豆ヤ人の豊前房　四
上地
よハ　ヤ　白拳の　相撲ヤ人出ヤ白着房
いぢ豆ヤ三郎富士ヤ人嶺の前冤ら

一たびかつきたの國より出ても有まし
やがるとなよおれハ比良横川やまの高
の嶽我慢高根の峯よりてんぐの
為よハあさま山霞とたなびきやとし
まつく 月ハ鞍馬の僧正が谷よ
みちく峯を動かして嵐の
音天狗たをしはしやめよ

此邪なるぞとふ天狗をしまうせてけよ
稽古のきいをすゝめんほう師をきそ
けんびん天狗かまうけ強よりん
ることも切付稽古のきりてきゝや度き
るひつきた御近みやちうれ申さんと
思ひとまりさんけ 意いと折の人や
せし様よ御近て大つう思召みよけく



奥義を傳へたるが、其ころよりは上
﨟もくぢも花なる御かた様
みち姿も心もあり天狗と師匠や
坊主と法賞歎べらるも大寺そのて
さひ傳へて平家を討しと思ひるや
やちの心さへやおい　抑も異代ほ
まれの角ぐ源平藤橘四家なも

みなは家のみかど八清和天皇代な
亂りてありく時節をかんなるま
たゝわる平家を西海よたつくりて煙は
滄波の浮雲よあらはれ自在をまて
ひきをと矢ひきを會稽をそすらん
御身を守らへ早乙や時勝
やて立場をなへつ若旗よもかゝ給へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

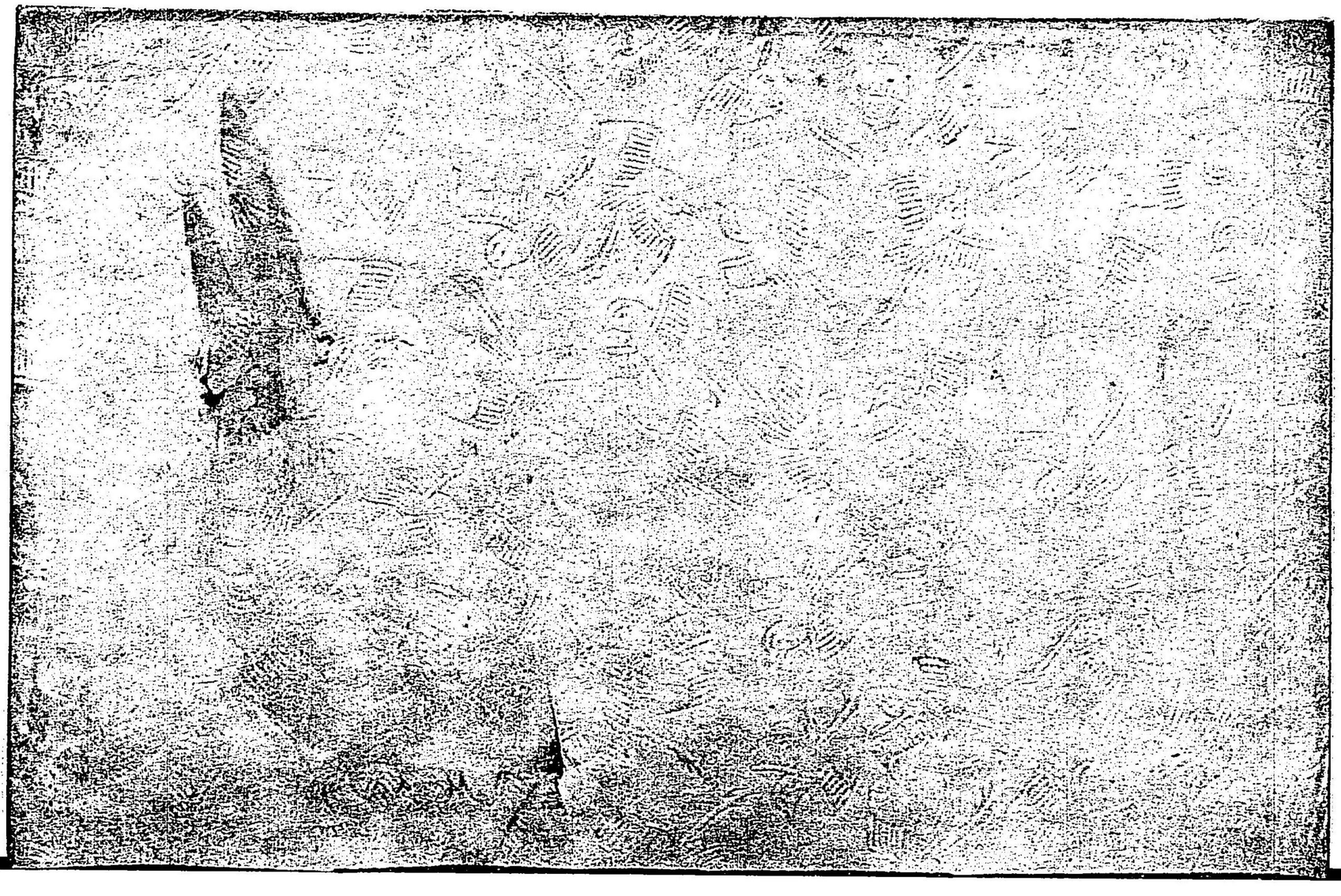
右之本者觀世太夫織部以章句
眞本令版行畢

天保十一庚子歳孟春改正再板

皇都旧二条通御幸町西江入町
山本長兵衛

明治廿六年二月十七日印刷
明治廿六年二月同日訂正出版
明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢五厘

板權所有

東京市麹町區飯田町四丁目壹番地
宮内省御用達
訂正者　觀世清廉
京都市上京區二条通御幸町西入壹番
發行者
兼印刷者　檜常之助